

2019 夏 デュッセルドルフ訪問記

ガバナンス研究科5期生 谷井千絵

今年の目的地は、デュッセルドルフ

8月半ば、猛暑の東京を後にして、私たちガバナンス研究科青山ゼミの有志は、恒例の海外視察へ飛び立った。目指すは、ドイツ連邦共和国デュッセルドルフである。お盆休みで混雑する成田空港・・・と思いきや、ほとんど待ち時間なく出国審査等を済ませることができ、以前に比べ、雰囲気も明るく、買い物や飲食スペースがにぎやかになった出国エリア内を楽しみつつ搭乗を待った。海外に出かける時、ここまで来ると本当にほっとする。日常からの脱出、既に旅は始まっている。

さて、今回のデュッセルドルフ訪問は特別である。ガバナンス研究科9.5期生である、ジェトロ（日本貿易振興機構）デュッセルドルフ事務所長渡邊全佳さんを頼って、現地の産業振興を中心とした調査研究の旅となっている。これまで私たちは、それぞれ個人テーマをもって、様々な都市を訪ねたが、今回ほど安心感のある視察はなかったのではないだろうか。

旅程はそのほとんどが公式訪問や調査ヒアリングで埋まり、内容の濃いものとなっていた。期待に胸が膨らむとはまさにこのことである。

また、現地に仲間がいることの親近感、心強さは過去にないことだった。訪問するメンバーのほとんどは、初めてのデュッセルドルフであり、この安心感は何ものにも代えられない。出発前、メンバーの間では、渡邊さんとの再会や交流を楽しみに、お土産を何にすべきか、といったメールがさかんに飛び交った。情報を共有しながら各自事前準備を行い、それぞれのルートでデュッセルドルフへ乗り込んだのであった。

連日、気温30度超えの東京とは打って変わって、デュッセルドルフの日々は、毎日が22~25度、湿度の低い快適な気候であった。日没は午後10時頃。夕方に視察を終えても十分に街を楽しむ

ことができた。父なる川ラインの雄大な流れに抱かれたその街は、多くの人でにぎわっており、テラスレストランで身体いっぱい太陽を浴びながらビールを楽しむ姿に、自然と我々のテンションも上がる。笑顔、笑顔、笑顔！足取りも軽く、毎晩、名物のアルトビールを求めて旧市街等へ繰り出した。

この視察では毎回のことながら、出発前の激務（メンバーは皆それぞれに休暇前に仕事を片付けなければならぬ）、時差ボケ、気候変化等から、体調万全とはいえない。それなのに、深夜遅くまで楽しむことができるのは、期間限定、気力のなせる技である。連日連夜のハードスケジュールをこなす強者揃い！武勇伝、伝説の類は数知れず。

この海外視察活動が定着して10年余になるが、いまだ衰え知らず！訪問先の食文化をはじめ、様々な文化を深く深く探求するのもこの視察の大きな目的である。日常を忘れ、心からリフレッシュできる機会となっている。



人々でにぎわう旧市街アルトシュタット

多彩な視察先

渡邊さんの絶大なるサポートを得て、8日間の滞在期間中に私たちが訪問した先は次のとおりである。旅程順に記す。

ジェトロ デュッセルドルフ事務所
デュッセルドルフ日本商工会議所
エッセン市庁舎 市長表敬、経済振興公社
エッセン市ツォルフェライン炭鉱業遺産群
エッセン市アンパシティブプロジェクト

エッセン市下水道再構築プロジェクト
 エッセン市マルガレーテンヘーエ
 ノルトライン＝ヴェストファーレン州経済振興
 公社
 デュッセルドルフ市庁舎 市長表敬、経済振興
 局
 ノルトライン・ヴェストファーレン州議会
 デュッセルドルフ市デジタルイノベーションハ
 ブ (Digihub)
 在デュッセルドルフ日本国総領事館

このような訪問先すべてにおいて、大変あたた
 かい歓迎を受け、交流し、多くのお話をうかがう
 ことができた。時には、率直な質問を投げかけ、
 対して、懇切丁寧な回答をいただき、また意見交
 換をすることもできた。

そして、これらの訪問の間を縫って、デュッセル
 ドルフ市内及び鉄道を利用して近郊のケルン、
 ボン等へ足を伸ばし、世界遺産観光や現地の食文
 化を楽しんだ。

欧州ビジネスの中心地 デュッセルドルフ

デュッセルドルフについては、名前こそ聞いた
 ことはあったが、それ以上の知識はなく、いつも
 にも増して事前調査が必要であった(この視察活
 動では、出発前に事前勉強会を行い、参加メン
 ーが訪問先の最新情報を独自の視点で報告しあ
 うことになっている)。しかし、書店にあるようなガ
 イドブックでは、デュッセルドルフは数ページし
 か紹介されておらず、主にインターネット上から、
 情報を入手した。

「外国企業が多く進出するノルトライン＝ヴェ
 ストファーレン州(以下、「NRW 州」という。)の
 州都、陸・水・空のインフラが充実し、企業に
 とって理想的なビジネス環境が整う、約 600 社の
 日本企業が進出、日本企業や日本レストラン、ス
 ーパーマーケット、本屋などがずらりと建ち並ぶ
 中央駅前のインマーマン通りは、さながらリトル
 ・ジャパン・・・」等の情報を見つけた。日本

とのかかわりが深い都市であることがわかった。

欧州の都市として、ごく一般の日本人がイメー
 ジするのは、パリ、ロンドン、ローマ・・・、ド
 イツならベルリン、といったところだろうか。歴
 史や観光スポットで知られた都市名は挙がるが、
 デュッセルドルフは出てこない。もちろん、ビジ
 ネスマンに聞けば全く違うのだろうが。事前調査
 を進めるうちに、デュッセルドルフへの関心や興
 味は深まっていった。



ライントワーと再開発されたハーフェン地区

実際に現地を訪問し、産業振興の話を知ると、
 彼らが「デュッセルドルフは欧州ビジネスの中心
 地である」ということを前面に出し、積極果敢に
 動いていることがわかった。

世界有数の先進工業国・貿易大国であるドイツ
 は、EU 加盟国の総 GDP の約 2 割を占め、最近、
 その経済成長は減速気味とも言われるものの確固
 たる地位を保っている。そのなかで、デュッセル
 ドルフ市が州都である NRW 州は、全ドイツ 4 位
 の約 3 万 4 千 km²の面積を有し、人口は約 179 万人、
 これは全ドイツ 16 州の中で最も多く、約 20%を
 占める。同州の GDP は、約 7,050 億ユーロ、全
 ドイツの約 21%であり、これは世界第 18 位規模、
 オランダ王国一国にほぼ匹敵するらしい。まさに
 ドイツ最大の経済州であり、売上高ドイツ国内上
 位企業 35 社のうち、15 社が同州に本社を持つと
 いう。

伝統的には、「ルール工業地帯」に代表される重
 工業中心だったが、1980 年代以降、機械、化学、

金属加工等の一大中心地となり、現在は、ハイテク、デジタル、環境技術関連に移行している。

そのような状況の中、どこに行っても彼らが強調するのが、州都デュッセルドルフ市を中心に半径500km圏内に約1億6千万人が居住し、それはEU圏全住民の約3分の1であり、欧州随一の人口集中地域であること。その購買力は同圏全体の約45%に値する、つまり大きなマーケットに近い。また、欧州主要都市のどこへ行くにも近い。アムステルダム、ブリュッセル、フランクフルト、ロンドン、ルクセンブルク、パリ、チューリヒ等、飛行機に乗って1時間で行ける。確かにこれは強みである。特にデュッセルドルフ市にいたっては、欧州全域160都市に就航する国際空港があるのだが、市内中心地までのアクセスが非常に良く、着陸してから30~40分で自宅に着くことができるという。住宅家賃も他都市に比べるとリーズナブルであり、ビジネスマンにとっては便利である。

このように、企業活動を行うには様々な面で優位な点があることを打ち出してプロモーションしている。



NRW州の強み

欧州のほぼ中心に位置する

販売市場に近い

抜群の交通インフラ

- 2つの国際空港と4つの国内・欧州線空港から国際直行便が450本以上運航、さらには、ライン川等の水路、鉄道、道路網

密度の高い研究ネットワーク

- 100以上のテクノロジーセンターと大学外の研究機関、70校に及ぶ多種多様な総合大学や専門大学

価格競争力のある土地・不動産を有する

訪問したNRW州経済振興公社は、こうしたプロモーションの先頭に立ち、デュッセルドルフ市をはじめとしたNRW州への企業誘致を進めており、世界各国に16もの現地法人（同州が100%出資）を展開し、東京にもそのオフィスがあると聞いた。我々視察団に説明をしてくださったアジア・オーストラリア・南アメリカ部長のアストリッド・ベッカーさんの名刺は日本語表記であり、会話も流暢な日本語であった。日本語で書かれた同社の紹介冊子もいただき、本報告書作成に大変役立っている。



NRW州経済振興公社でのヒアリング

日系企業とのかかわり

そんな欧州ビジネスの中心地デュッセルドルフ市と日系企業とのかかわりは深い。

まず、欧州（ここでは、英・仏・独・蘭・伊）に進出している日系企業約3,600社のうち、ドイツは約1,500社と断突であり、その数は増加傾向、業績も好調を維持しているとのことである。

ドイツ国内でみると、全体の約3分の1がNRW州への進出である。州都であるデュッセルドルフ市及びその近郊には、欧州最大の日本人コミュニティが形成されているという。日本人の数は、同州全体で約1万6千人、デュッセルドルフ市で約9千人。昨年1年間で500人増加している。

その現れが、デュッセルドルフ中央駅前のインマーマン通りの「リトル・ジャパン」である。市はじめ関係機関へのヒアリングから痛感したのは、日系企業誘致に対する現地の継続的かつきめ細やかな努力である。

日系企業はデュッセルドルフ市のもつ利点に着目し進出を決める。そして、受け入れる現地も地域のさらなる発展のために体制を整え、日系企業を歓迎し、いわゆる企業の誘致策にとどまらない、企業で働き、街に暮らす日本人の生活全般が快適になるようインフラ整備を積極的に行っている。

視察では、受入側であるデュッセルドルフ市経済振興局と進出する日系企業の集まりであるデュッセルドルフ日本商工会議所を訪ねた。

デュッセルドルフ市における 日本関係のトピックス

中心街と中央駅に挟まれた地域(インマーマン通り周辺)に日本人コミュニティが確立

- ・日本食レストラン、日本食料品店
- ・日本語が通じる病院、弁護士、会計士、不動産屋、美容室...
- ・日本人学校、幼稚園

取りやすい日本人の労働許可

日本紹介行事「日本デー」の毎年開催

- 文化市民交流祭と経済シンポジウムからなる行事。文化市民交流祭は、毎年 60~70 万人が訪れる欧州最大級の日本紹介イベント。最終日の夜には、日本から職人を呼び寄せてライン河畔で本格的な花火大会を開催。

(2002 年以降、NRW 州、市、在留邦人団体の三者共催)

2018 年 7 月、NRW 州議会に対日友好議運が設立東京において交流会「デュッセルドルフの夕べ」を開催

- デュッセルドルフ市での駐在経験者や縁のある人、進出を検討中の人等を迎えるイベント。1000 人以上が参加。市長、経済省局長、駐日大使等も出席。

(市、NRW 州経済省、メッセ・デュッセルドルフの主催)

経済振興局には、進出を考える日系企業を支援するためのジャパン・デスクが設けられている。日本語で書かれた冊子には、担当者の笑顔の写真とともに「お気軽に日本語でお問い合わせください。」との記載があった。訪問時には、この担当者のお一人、レオンハートさんが穏やかな日本語で対応してくださった。

商工会議所では、事務総長の森宏之さんから、1966 年に設立された同所による会員企業への支援活動、様々な交流事業、日ドイツ経済・友好関

係の強化促進への貢献等、活発な活動状況等について説明いただいた。日本人のための生活インフラがきめ細やかに整っており、住み心地がとてもよいとのことであった。デュッセルドルフ市の税収の約 10%が日本人によるものという実情もあり、市は企業誘致策に加えて、日本文化への理解、信頼関係づくりを進めているという。



デュッセルドルフ日本商工会議所の森所長と



インマーマン通りのリトルジャパン

このような長年にわたって築き上げられた市や関係機関の信頼のおける相互協力関係が、企業の事業活動を促進し、そこに暮らす日本人の安心につながっている。

日系企業は、世界中に進出し、そこには関係する日本人の生活が存在している。私たちの海外視察では、過去にニューヨーク、ワシントン D.C、シアトルやロサンゼルス等で現地の日系団体と交流したことがあるが、デュッセルドルフ市の事例は新鮮であった。私たち視察団の市長表敬訪問の様子がすぐに市のホームページにアップされたこともそれを物語っている。



デュッセルドルフ市長表敬訪問で記念撮影
市 HP にも掲載(下記サイト):

<https://www.duesseldorf.de/aktuelles/zu-gast-im-rathaus/einzelansicht-zu-gast-im-rathaus/newsdetail/japanische-delegation-zu-gast-im-rathaus.html>

結びに

今回の視察においても、自分の目で見て、話を直接聞いて、五感で感じる・・・現地を訪れることによって得たものは非常に大きい。貴重な経験、と一言で片づけることのできない経験をさせていただいた。

現地での各所訪問の際、様々な立場の方と交流し、デュッセルドルフ市、エッセン市や NRW 州の産業振興に対する関係者の熱意、力を合わせて取り組む姿に刺激を受けた。国やシステムは違っても、そこで取り組む人間の姿、思いはどこも同じである。私も一社会人として、誇りをもって仕事に取り組みたいと思う。現地でのあたたかな歓迎と熱心な説明にあらためて感謝したい。



デュッセルドルフ市デジタルイノベーション
ハブ (Digihub) でのヒアリング

そして、渡邊さんと視察団の団長、土井裕之さん(ガバナンス研究科3期生、さいたま市議会議員)には、感謝の気持ちでいっぱいである。数か月前から頻りにメールで連絡を取り合い、訪問先の選定、依頼、時間調整、当日の段取り、そして視察全体のスケジュール等々の調整に奔走して下さった。現役ジェットロ所長のコーディネートともなれば、訪問先の候補は多く、限られた日程の中で、スケジュールを組むことは本当に大変だったと思う。ありがとうございました。

既に、次回の海外視察も予定されている。この一員として参加できることをゼミの主催者である青山先生(都市調査会代表)はじめ関係の皆さんに感謝しつつ、2019 夏デュッセルドルフ訪問記を締めくくりたい。

Vielen Dank

Auf wiedersehen



ジェットロ事務所で、渡邊所長、木場次長と



旧市街のレストランでの夕食

本稿作成にあたっては、現地ヒアリングにて各所からいただいた資料に掲載されたデータ等を引用、参考とし、また、写真については筆者撮影に加えて視察団メンバー撮影のものをお借りしました。